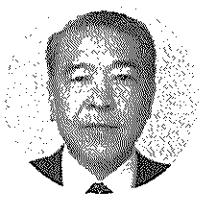
農業女子トラクタ「しろプチ」登場

井関農機

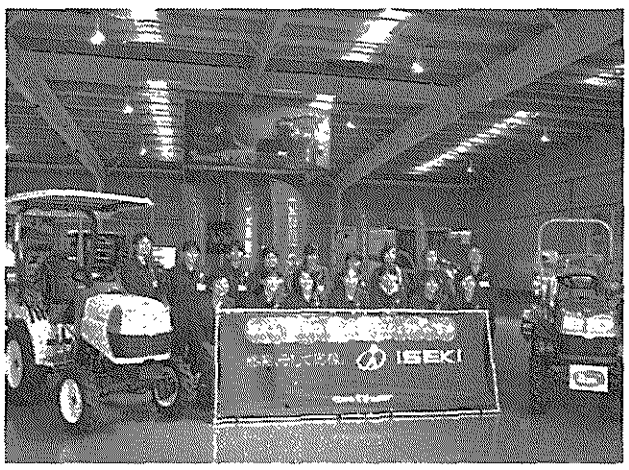
茨城で農業女子プロ

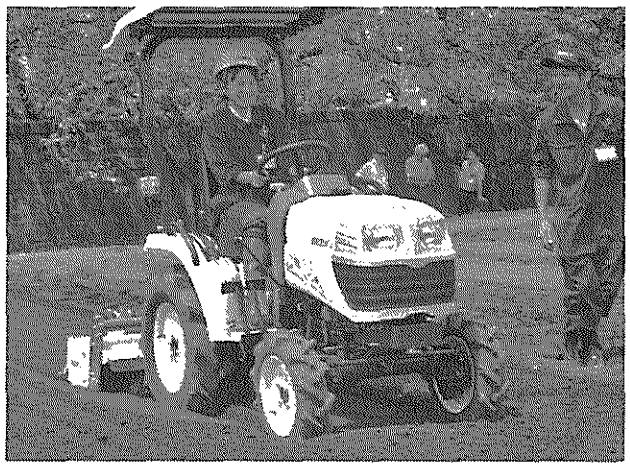
20名参加し農機セミナー　低振動に高い評価

井関農機㈱（木村典之社長・東京都荒川区西日暮里5の3の14）は19日、茨城県阿見町の㈱キセキ関東（縄田幸夫社長）のITST（キセキトレードサポートセンター）と構内の圃場で「夢ある農業女子応援プロジェクト」の一環として野菜作向け農機セミナーを実施した。これには農林水産省の「農業女子プロジェクト」の一環として開発した農業女子トラクタ「しろプチ」が9月の発売を直前に控え初登場、参加者から熱い期待が寄せられた。


木村社長

同社は、「社会、農業界での女性農業者の存在感を高める」ことを目標に、農林水産省が一昨年11月から推し進めている農業女子プロジェクトに参画し、全国の農業女子を対象に農業機械の取り扱いセミナーを開催してきた。今回のセミナーは応援プロジェクトに対して「各地域でも開催してほしい」という要望があり、それに応えたもので関東近県から20名の農業女子が参加した。

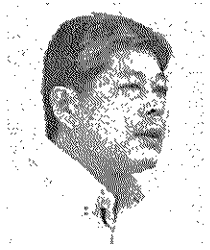

「しろプチ」と一緒に全員で記念撮影


笑顔で「しろプチ」に乗る開発に携わった榎本さん

農林水産省からは経営局就農・女性課女性・高齢者活動推進室課長補佐の千葉芳信氏、また地元茨城県農業経営課の安達慎介氏、JA全農いばらき生産資材部農業機械課農業機械推進室室長の近藤一朗氏、それに井関農機から営業推進部長の三輪田克志氏が出席した。

開会に先立ち、千葉課長補佐、近藤室長、三輪田部長が挨拶に立ち、それぞれ実りのあるセミナーに、と期待を寄せた。

セミナーでは初めに千葉課長補佐が、女性農業者を取り巻く現状と課題、農業女子プロジェクトの具体的な成果などについて説明したほか、日本農業法人協会が27年度の補助事業で行う「農業の未来をつくる女性活躍経営体100選」（WAP100）を紹介、応募を促した。次いで安達氏が県の女性農業者支援の状況を説明した。



この後、トラクタ「NTA31」を使った連結ブレーキはじめ安全作業のための基本的な操作方法の実習、そして圃場での耕うん・整地作業、トラクタ、管理機による畝立て、マルチ、中耕、土寄せ、スパイダーモアによる斜面刈りなどを実習した。

培土作業も余裕で

この中で注目されたのは耕うん作業に、6月に発表しこの9月から発売する農業女子トラクタ（愛称「しろプチ」、型式はZ15－JW）が用意されたこと。この開発に農業女子のメンバーとして携わり女性の視点から意見を述べたという榎本房枝さん（埼玉県、20種類のミニトマトを主にレストランに直納）が今回参加しており、実際に圃場でロータリ耕を行った感想を聞くことができた。

榎本さんは、「商品開発の途中では運転したが、完成機は初めて。実際に振動がどうか、その一点を確認したい」と試乗。結果は「思った以上に感じなかった。コスト切り詰めのために余分なところを排除しているが、納得の性能といえる。けっこう大丈夫。価格も新規就農者にはいける」と評価した。

また、「農業初めて、トラクタ初めて」という飯嶋真澄さん（成田市）は、「手動部が多くて怖かったけど、途中から楽しくなった」と話した。

挨拶する、上から農林水産省・千葉課長補佐、全農いばらき・近藤室長、井関農機・三輪田部長

田中産業

スタンドバッグスター＋モミクーラー

担い手ニーズに合致　65時間の一時貯留

田中社長

記録的な猛暑が続いたこの夏、田中産業㈱（田中逸郎社長・大阪府豊中市浜1の26の21）発売の「スタンドバッグスター＋モミクーラー」がムレ米、ヤケ米の発生を防止し、等級確保に役立つと注目を集めている。「スタンドバッグスター」は、全体がメッシュ状で通気性に優れており、袋だけでも穀温上昇を抑えて品質事故を防止するのに役立つが、筒状ファンの「モミクーラー」と併用すれば、約65時間も品質を落とすことなく籾や麦の一時貯留が行える。担い手農家からは、「等級を維持できるうえ、更なる規模拡大や時間短縮、乾燥機の効率利用につながる体系」と人気だ。

穫した後、乾燥施設に投入するまでの作業を省力化する大量収穫輸送袋。特に同スターシリーズは、収穫後の作業を省力化